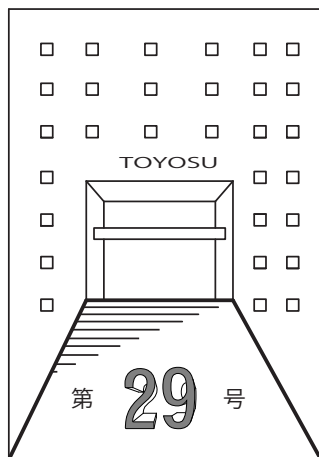


建築会

ご寄稿頂いた皆さま

鈴木泉 土方勝一郎 石塚翔太
長谷川侑香 小関克洲 石崎幸亮
藤元節男 齋藤修一 田中一男
川口英樹 石田雅美 間宮農一
河原裕樹 堀越英嗣



芝浦工業大学建築会

〒三三五八五四八

江東区豊洲三十七五

〇三五八五九八四〇〇

<http://sit-arch.com/>

二〇二三年二月二日 刊行

昨年、第2回建築会同窓会を開催

建築会会長

鈴木泉（一九八六年卒）

二〇〇八年開催の「第9回建築会総会」にて、石井前会長より会長職を引き継いで丸五年となりました。

その間、建築会の活動としては、毎年発行される「建築会会報」の発行、二〇〇九年に発行した「建築会・建友会名簿」、また来年在開催年に当たる三年毎の「建築会総会」の開催を活動の基軸にしておりますが、建築会会則第二条の、「本会は会員相互の親睦を図るとともに、建築に関する学術及び技術の進歩に寄与することを目的とする。」とある建築会の目的を具現化するために、二〇一〇年より、総会が開催されない年の年末に建築会全会員を対象にした「建築会同窓会」と題したイベントを開催することといたしました。

二〇一〇年の第一回同窓会では、建築学科卒業生でもある学校法人芝浦工業大学理事長の五十嵐久也氏に講演をお願いすると共に、当時、建築業界で最大の関心事であった、東京スカイツリーを題材としたイベントを開催しました。

そして、昨年二〇二三年の、第二回同窓会として、石川洋美名誉理事長、三井所清典名誉教授、枝広英俊教授、加藤國雄建築会元会長をお招きして、「座談会〜建築学科創立六〇周年を巡る光と影」と題した座談会を開催しました。

座談会は、学科創設期の授業風景や当時の先生方の思い出について建築学科第一期生でもある加藤元会長にお話いただき、そのお話を承け、石川先生より草創期の先生方のお話や学生の授業風景、建築工学科、及び、システム工学部の誕生秘話をご披露いただき、三井所先生からは赴任直後に学園紛争が起きて時代に翻弄されていくご自身を含めた教員や当時の学生達の思い出をお話いただき、枝広先生からは在学中が学園紛争の只中で、そこから新たな時代を迎える大学の様子

とパネリストの中で唯一豊洲校舎を知る立場から学生気質の変遷について語っていただく等、各パネリストから貴重なお話をいただき、大変有意義な座談会となりました。この座談会の記録は、近々、小冊子にまとめる所存です。

年一度の建築会全会員を対象としたイベントは、今後も継続したく考えております。本年度の「建築会同窓会」は、年度明け二〇一四年に開催予定の「建築学科主催・学科創設六〇周年記念事業」に協賛する形を取りたく考えております。

建築学科では、同記念事業の開催を、OB教員・学科卒業生・大学院修了者を対象に幅広い世代の方々、また、幅広い分野でご活躍の方々の出席を期待しているそうですので、建築会もその一助となるべく、また、建築会の取り組みについてより多くの会員に関心を持っていただくべく、多数の皆様の出席を呼び掛けて参りますので、是非、ご出席賜りますようお願いいたします。

【佐藤総合計画 企画推進室 勤務】



第2回建築会同窓会

着任のご挨拶

土方勝一郎



平成二十五年四月、工学部建築学科に着任いたしました方と申します。長い伝統を有し、数多くの優秀な技術者を輩出してきた芝浦工業大学の一員となれましたこと、大変ありがたい光栄に存じます。

専門は建物の耐震設計で、民間企業で長年この分野の実務と研究に携わって参りました。本学では建築構造関係の科目を担当いたします。

ご案内のように我が国は世界有数の地震国です。平成七年に発生した阪神淡路地震から始まり、二十世紀末から現在に至るまで、日本列島は繰り返し大きな地震に見舞われていきます。このような状況の中、二十一世紀の我が国は、高度に発達した大都市を襲う「直下型地震」と、東北地方太平洋沖地震のような広域に被害を及ぼす「海溝型巨大地震」の両者に備えることが重要な課題となっております。現在、本学で学んでいる学生たちが社会に出た後、このような大地震に直面することは否定できない現実と考えます。

建物の耐震安全性を研究するためには、「地震動の評価」から始まり、「地盤や建物の揺れの評価」、それに続く「建物の有する耐震性能の評価」までを一貫して総合的に理解する必要があります。

このように耐震設計は大変広い領域をカバーする高度な技術分野です。一方で、国民の生命・財産を守る使命を持った、社会の営みに直結した実学分野でもあります。

今後は、講義や卒業研究等を通じ、来たるべき大震災に立ち向かうことのできる技術力を身に付けた学生を輩出すべく、微力ながら努力する所存です。また、幅広い物の見方や、コミュニケーション能力、課題への柔軟な対応力等の実社会で求



められる人間力の養成にも、十分配慮したいと存じます。

今後、学生達と一緒に学べることに、大変楽しみにしております。何卒宜しくお願い申し上げます。

【芝浦工業大学 工学部建築学科 建築振動・地盤振動研究室】

建築環境・音響研究室
古屋研究室レポート

石塚翔太



建築環境・音響研究室は、平成二十三年四月に古屋浩先生が着任されてから今年で三年目になります。現在院生一名と学部生八名が在籍し、先生のご指導の下、建築音響、空間音響、心理音響および音響設計といった分野の研究をしています。

◇研究内容について

私達は、主にコンサートホールや劇場などを対象に、(一)空間の形態と内部の物理音場の関係、(二)音場の物理特性とそれによって生じる人の聴覚心理の関係を明らかにすることを目的として、模擬音場による心理実験やコンピューターによる



建築構造設計研究室

小澤研究室レポート

長谷川侑香

音場解析、そして実際の空間の調査・測定実験などを行っています。また、学部の卒業研究では、商業施設やアトリウム空間など多種多様な音が入り混じる公共空間を対象にしたサウンドスケープデザインに関する研究やオープンプランオフィスのスピーチプライバシー問題に関する研究、またメディアアート展示空間における鑑賞者の主観評価構造と音環境デザインに関する研究など、いろいろと興味深いテーマで研究を行っています。また、卒業設計をする学生もいます。

◇研究室の活動について

研究室では、定例ゼミのほか、研究の遂行に必要な統計理論や新しい解析方法など、テーマごとの絞った個別ゼミ、そして実際のホールの見字調査等も多く実施しています。

今年度は、新国立劇場の見学、天空劇場の音場創生体験、東京国際フォーラムにおけるラフォルジュルネ音楽祭の体験と物理測定などを行いました。本物のナマの音場を体験することで、私達が普段行っている研究や勉強の理解をより深めることができます。

また、学生設計競技にも参加していて、アメリカ音響学会の建築音響デザインコンペでは、二年連続で賞をいただきました。

◇研究室の生活について

研究室では月例の懇親会も行っています。先生と院生、学部四年生に加えて後期からは三年生も参加し、学年間のコミュニケーションの場としています。また、年に一度のゼミ旅行では、昨年は日光へ行き、東照宮の鳴龍（フラッターエコー現象を皆で体験してきました）。

建築音響という分野は、一般にはあまりなじみのない分野かもしれませんが、私達はその分毎日新鮮な刺激を感じながら建築というものについて考えることができているように思っています。先生とメンバーが皆協力し合って厳しくかつ楽しく活動しています。

今後とも、土屋研究室をよろしくお願いいたします。

【芝浦工業大学大学院建設工学専攻一年】



小澤雄樹研究室には、大学院生が四名、学部四年生が八名の計十二名が在籍しており、准教授のもと、日々研究に打ち込んでいます。

現在、主に「木質ラーメン構造」「張力構造の形状解析」「吊り構造の振動特性」などのテーマについて、それぞれ分かれて研究を行っています。ここでは、これら三つのテーマそれぞれの研究内容を紹介します。

木質ラーメン構造をテーマとする研究グループは、加工性・施工性が高く効率的に応力伝達可能な木質ラーメンの提案とその構造性能の把握を目的としています。これまで、接合部によるモーメント解析を行ってきました。今後は、実験の解析結果をもとに試験体数を増やして実験を行い、構造挙動の与える影響の評価を行っていきます。

張力構造をテーマとする研究グループは、膜構造物の最適形状やその構造が負担する応力を算出可能な解析プログラム

の作成を目的としています。これまで、簡単な膜構造やトラス構造の形状解析と応力解析のプログラムの作成を、解析ソフトを用いて行ってきました。

今後は、より汎用性の高い形状解析・応力解析が可能な解析プログラムの作成を行っていきます。吊り構造をテーマとする研究グループは、一方向型吊り屋根構造の地震時の挙動を得ることを目的としています。

これまで、エルセントロ地震波や東京の長周期地震動のデータをを用いて地震時における解析モデルの挙動を解析してきました。

今後は、モーシヨンキャプチャーを用いたモデルの地震挙動の実験と、吊り屋根のサグ・スパン比や重量をパラメータとして変化させたときの地震挙動に対する解析を行っていきます。このようにテーマごとに分かれてはいますが、同じテーマのメンバーのみで研究を進めていくのではなく、構造という括りで意見を交換し実験時は進んで協力しあうという姿勢で研究に励んでいます。今後とも、小澤研究室をよろしく願っています。

【芝浦工業大学大学院建設工学専攻二年】

道しるべ・恩師

小関克洲（一九六〇年卒）



建築を学ぶ為に青森から上京して建物の大きさ高さに圧倒されてしまった。その後帝国ホテルを見ることになり、あまりにも美しく、緻密なディテールに驚ろかされ自分の進む道が厳しいことに自信を失うことになる。

然し学校に行くことと素晴らしい先生方「村松、吉田、嶺岸、沖、

身体障害者手帳をもらって

石崎幸亮（一九六五年卒）



川島、橋本、イシグロ先生、都市計画、日笠先生、造園、重森先生」の講義を受けたことでおぼろげ乍ら自信を持てる様になった。その中で兄貴的存在だった石川先生とストロップの石炭をバケツで各教室に配ったことが懐かしく思い出されます。また村松先生の講義は聞いてる内に引きこまれ時間切れとなり校庭の隅みにあつた学食に移動し暗くなるまで話されていたことも忘れられません。

その後、京都、奈良への旅行で桂離宮を見ることで他の建築は社会的地位や伝統的権威に基づいて見栄を張ったものが多い中で、清冽な建物、それをつなぐ敷石、飛び石までもそのフォルムの美しさに「創造の自由を感じ深い感銘を覚えました。」

次への移動する道すがら嶺岸先生が建築の素晴らしさを熱く静かに話して下さったことも忘れられません。卒業後先生の紹介で現代建築研究所へ入所することになりました。

橋本先生がチーフとしていらして、浅学の私を根気良く指導して下さい、その後先生が事務所を創設されてから自分も加えて頂き十年間建築家として生きざまを目のあたりにすることになり、私の後の人生に役立っていることに常日頃感謝いたしております。その間先生のお供で村野藤吾先生、前川國男先生他建築会の重鎮と言われる方々と同席することができたことは何ものにも代え難い大切な教えとなっています。前川先生がある時、新しい材料がでて十年位は使うべきではない。大事なお客様の大事なお金を使うことなので、村野先生もこれに似たことおっしゃっていて、お二人の細かい配慮に深く心を打たれました。

その後前川先生がお年を召されて足が少し不自由になられても最近フランス語を勉強しているとおっしゃるのでその訳を伺った所、先生が「若くて美人なんだよ」とニッコと笑ってお別れした後ろ姿が忘れられません。

振り返ってみると素晴らしい恩師に恵まれた人生に感謝の日々を送っており、まもなく傘寿になりますがもう少し建築を続けたいものと考えています。

身体障害者手帳をもらって

石崎幸亮（一九六五年卒）



私は現在、私立高等学校と附属幼稚園、そしてもう一ヶ所知的障害者施設の理事長をしています。どちらも二十年前から理事を務め今は理事長を務めている訳ですが、二年前までは山口県議会議員もしていましたから、毎日がとても忙しく、それこそ病気をするひまもなかったのに何故か平成十一年に肝臓癌にかかり開腹手術で腫瘍を焼ききりましたが、二年後に再発、手術、又一年後に再々発手術と三回手術をしました。

もう肝臓は機能を果たさず余命数ヶ月と言われました。生きる道は肝臓移植だけ。家族の中で血液型が唯一私と合った三男の肝臓を移植する事になりました。そして私は平成十五年十二月に新しい若い肝臓をもらって生き返りました。肝臓は増える臓器ですから、息子の四十%をもらいましたが、その後私の体にあつた大きさを大きくしています。飲んでる薬に反応するので、グレープフルーツと納豆は食べられません。これは臓器移植をした人の宿命です。しかしそれ以外は普通の人と同じに食べたり飲んだり出来ます。勿論お酒もです。

ながながと述べましたが、ボツボツ何を言いたいかをお話ししたいと思っています。

それは、平成二十三年に法律が変わって臓器を移植した者は一級の身体障害者に成りました。そして私には赤い障害者手帳が市の福祉から交付されました。一級の身体障害者には色々な特典があります。私は見た目も普通の人と変わらず生活出来ますが、もう七十才ですから多少動きは鈍いです。私の県会議員の時の政治信条は「教育と福祉」でした。

今もその両方に関係でき毎日高校生や障害のある人達に囲まれて仕事出来る幸せをしみじみ感じています。

手術をした当時は保険が適用されず、手術費用は皆さんに寄付をお願いした事や沢山の色々な方々に助けられて今がある事を、赤い手帳を見るたびに思い出し、感謝の毎日です。

【元山口県会議員 現学校法人理事長】

建築に囚われて

一九七〇年代・東京そして沖縄

藤元節男（一九七〇年卒）



先般、二〇二〇年東京オリンピック開催が決まりました。これに先立ち、かつて一九六四年東京オリンピック、一九七〇年大阪万博が有りました。これに呼応する六三年高二の修学旅行と、七〇年大学卒業までの諸々の刺激的な体験。この二つが私を東京に押し出し、その後私が建築に囚われることとなる決定要因となりました。

修学旅行自由行動日、広島島の山奥生まれ育ちの私は一人地図片手にTVニュースで見た開催前のオリンピック施設を訪ねました。千駄ヶ谷と代々木の国立競技場です。手塚治虫氏の漫画や小説、映画で空想していた未来都市。青空の下に伸びる首都高速道路網や巨大な競技場施設群。まさしくこれらは未来都市そのものでした。代々木第一競技場を訪ね、その内部に入って私は息を呑みました。そこには吊大屋根に覆われた大空間の緊迫感、その底にある青い水を湛えたブルーの静謐さ、それは初めての喻え様の無い空間経験でした。

私はこの時「マブイを落とした」(*注1)のです。
我に返った時、「何故これが感動を生むのか、どうすればこ
のようなものがつくれるのか」この答えを得ようと建築学科
を選択、翌々年上京したのです。

修学旅行当時、この頃はまだ蒸気機関車、急行安芸で広島・
東京間一七時間かかりました。退屈しにぎに立原道造の詩集
を抱えて行きました。多感な時代でした。立原が東大で丹下健
三の一年先輩、在学中辰野金吾賞を受賞した建築家であるこ
とは知ったのはずっと後のことです。

大学紛争真つ盛り、四年間の在学中キャンパスは大半が閉鎖
状態。政治的混沌の中、建築界では様々な議論、活発なムーブ
メントが有りました。先達ル・コルビュジエやミース・ファン・
デル・ローエの遺産を引き継ぐ次世代建築家は誰も、近代建
築のモダニズム・均質空間・グローバルイズムその先を暗中模索
した時代です。この情況下、私の建築体験はいささか特殊でし
たが、多感な青年期の中に身を置いたこと自体、むしろ幸い
でした。

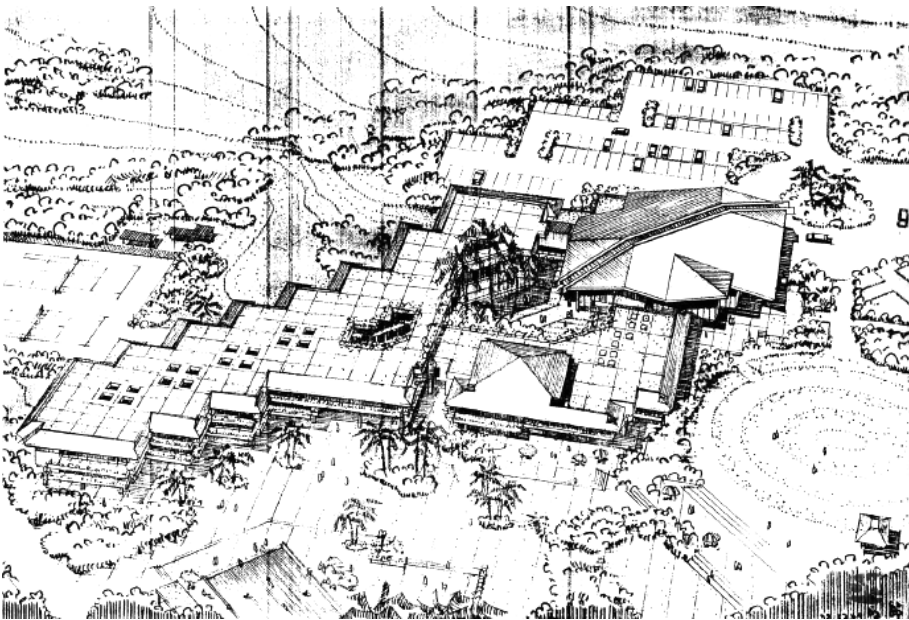
卒業後は、大学先輩の事務所に入所、七年間ひたすら実施ス
キルを叩き込まれました。ここでの最後の担当P.J.郷里広
島の公民館の完成と結婚を期にリターンを決め、その前にと
これまで叶わなかった「欧州建築見て歩き」を敢行。改めて西
洋建築を復習・確認し、建築に向かう姿勢を反芻する第二の修
学旅行となりました。この直後、大学後輩の案内を受け沖縄を
訪ねました。初めて目にする穏やかな珊瑚礁の青い海。私は既
視感と共にはばし眩暈に襲われました。我に帰り「これは、あ
の代々木競技場のプールの色だ」と気づいたとき、私はかつて
落としたマブイをここで拾い戻したのです。一九七七年のこと
です。そして移住を決意、三十有余年の在となりました。当地
では幸いにも自由に多くの建築P.J.に参加する機会を得まし
た。建築に囚われた私の人生は、当地での実践を通して、未
だに解放されておりません。

模索はまだまだ続いています・・・地域の中で、その風土の中
で建築はどのように振舞えばよいのか。建築に携わる私たち

はどのように振舞えばよいのか・・・当地沖縄では、幸いにも
「風と光」がやさしく、時に厳しく教えてくれています。風土が
建築をつくらせてくれているのです。この教えから学ぶこと
によって、私たちの振る舞いは決まるのだと思います。

【節・アーキテクト 主宰】

(*注1)沖縄方言で、「魂を失う」の意



第三十九回東京建築賞 優秀賞受賞報告

齋藤修一（一九七五年卒）



建築設計に専念するため竹中工務店を退職し、D&D COMPANY、SAITO ASSOCIATESという事務所を立ち上げて八年になりました。個人事務所で取り組んだ成果として、平成二十二年に賃貸集合住宅「Oggi」が「第二十六回住まいのリフォームコンクール」で国土交通大臣賞、そして今年に賃貸集合住宅「PATH」が、東京都建築士事務所協会主催第三十六回東京建築作品コンクール共同住宅部門で「第三十九回東京建築賞・優秀賞」を受賞しました。

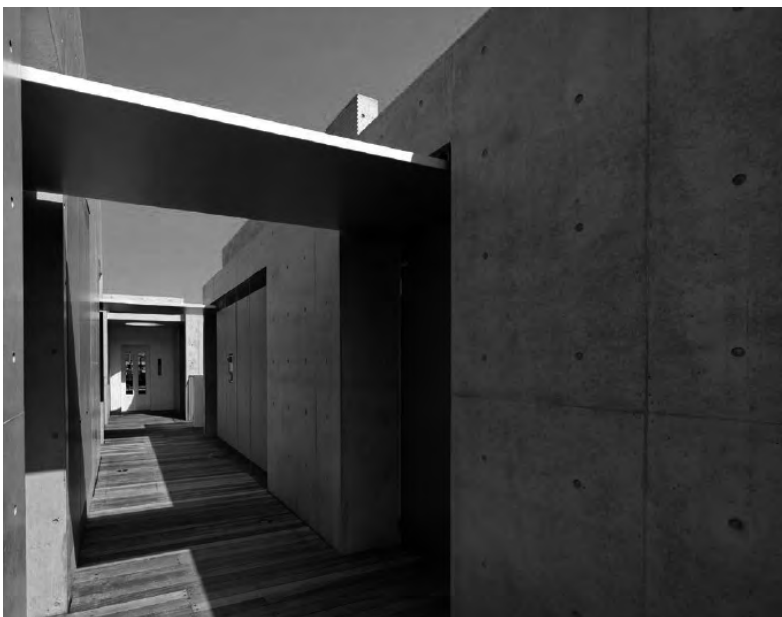
この受賞を、芝浦の皆さんにご報告できることはうれしい限りです。また現在、仕事の幅を広げ、再開発事業として、大阪の中崎町と東京の弁天町で街並みを作り出す計画に携わっています。大学卒業後竹中の設計部で修業を重ね、オフィスビルを商業と賃貸マンションにコンバージョンした「カランタ自由が丘」(GD賞受賞)が、設計部課長としての最後の仕事となりました。思い返せば一九八四年から三年間従事した「ホテル日航サンフランシスコ」でアメリカの建築の仕事に触れたことが、自らの設計に革命的な飛躍をもたらしました。

また、「杏林救急センター」での病院建築賞、中村拓志氏による建替前のGAPが入っていた原宿の角地に建つ「t's原宿」での学会賞・ICSC最優秀賞・GD賞等々の受賞、中国での「香港オーシャンターミナル」でのBEST STORE OF THE YEAR 二〇〇四賞などが竹中での記憶に残る仕事となっています。ゼネコンの設計部で、死に物狂いで時代の先端の設計に従事したことが、今の自分のあり方と道筋を切り開いたと思っています。

芝浦で学生として学んだことは、隔世の感がある建築の

時代を迎えています。日本・アメリカ・中国の建築設計に携わることで、時代と共にある建築と向き合って歩んできました。そして、自分がこれからも建築にどう立ち向かっていけるのか楽しみでもあります。
重ねた年齢と技術的经验をあわせた建築への思いをバネに、これまで頂いた賞に恥じない取り組みを重ね、これからも真摯に建築の高みを目指していきたいと思っています。

【株式会社SAITO ASSOCIATES代表】



なつかしい芝浦校舎

田中一男（一九八〇年卒）



学園を振り返るとき工業高等学校時代の印象は欠かせないものになっています。当時付属工高は芝浦校舎の一角にありました。一五歳からの多感な時をあの校舎で楽しい仲間と過ごせたことはいい思い出です。私服通学で生協も食堂も学生さんと一緒でしたので気分は学生でした。

その後その仲間と四年間、東大宮と再び芝浦に戻り学生生活を送りました。残念なのはあのときの芝浦校舎はもうないことです。

秋口に本館の玄関をくぐるどひんやりした感じがしました。右手二階へ続く階段の厚い手摺の感覚も覚えています。工高時代は中庭と体育館が運動場でした。

あのタイル貼りの夕刻の薄暗い中庭はなんとも郷愁を誘います。二つの中庭を挟んで玄関と対象軸にあった図書室側のエレベーター、階段廻りの感じも何の変哲もない狭い空間でしたが、どこかにこの雰囲気とよく似たデザイン学校がきっとあるだろうなと想像していました。

当時の工高は三科体制で機械科二クラス、電気科二クラス、建築科一クラスで一クラス六十名前後、一学年三百名ほどでした。付属高校はもうひとつ池袋に普通科がありました。これが後の板橋校です。

工高は私たちが最後の工業課程で後に付属第一高校となり教職員の方々は柏高校へと引き継がれていきます。工高の建築科では当時大学で助手をしておられた衣袋先生が非常勤講

師として建築計画を教えてくださいました。

建築学科では加藤角一先生のゼミでマッキントッシュを題材に卒業し、建築の設備会社に就職して三十三年になります。弊社の本社、本店が芝浦にあり、校友会で常任幹事をしている関係で芝浦新キャンパスにも月に一度くらいは行き来していました。

卒業してからいろいろな空間体験をしてきたと思いますが、「なつかしい」と思えるのは芝浦校舎だけです。

私にとって仲間環境も含めてかけがえのない時間が流れていたのだと嬉しく思っています。現在は社の都で営業担当をしています。東北大学・片平キャンパスの傍に借り上げ社宅があり、休日の夕方はよく散歩に出掛けます。

学生の明るい笑い声が震災に耐えた壁面にこぼまして静まり返ったキャンパスに響いています。

【日比谷総合設備株式会社】

これからの私 人のつながりを求めて

川口英樹（一九九〇年卒）



本校卒業して二三年間経ちました。熱心に就職先を探すわけでもなく、毛井研究室所属でありながらも、小さくていいので大阪の会社でちゃんとした会社はどこですかと、枝広先生に尋ねた会社が当時好きだった、建築家安藤忠雄のタイムス

ビルの施工会社という理由だけで入社を決めた安易な経緯が蘇ります。

入社は倉敷支店の設計課に配属になったものの、毎日施工図とりわけ木造の原寸図作図が日課となり、大原美術館横の新深園は私の原寸図がもとになっているはずで、倉敷での三年間が施工図に対するこだわりを作ってくれました。

バブルの余韻も残る東京支店に転勤となり、図面が書ける現場やつとけと昼間は現場でドロドロ、夜は施工図でポロポロ、そのうち手描きからCADにならずいぶん楽になったものの、最近の若い人は手書きができなくて残念です。

現場で嫁さんと出会い、二児の父親ではありますが、家のこととは一切やらず、やりたいようにやらせてもらっています。この場を借りて感謝します。

以来、約一五年間、施工管理、購買や積算業務も経験し、現在では念願の営業渉外をやらせてもらっています。

いかに自分の会社、先輩たちが残してもらったものの多さ、ありがたさを痛感しています。お互いの信頼、信用のもとに継続してくださる得意先の存在です。明確な理由はわかりませんが、コストだけじゃなく、人と人のつながりがキーとなっていると感じています。

七年後の東京オリンピックの時に弊社創業百周年を迎え、私自身も勤続三十年を迎えます。本校に入学して以来、建築一筋で、何かすごいことはできないけどコツコツ、人のつながりを大切に、のめり込んでやっていきたいと考えます。

三年前から建築会にも顔を出させてもらい、諸先輩に囲まれ叱咤激励を受けており、これまた人のつながりの大切さとその意味を実感している今日このごろです。ありがとうございました。

【株式会社工務店 東京支店】



迷路の街にある我が家

石田雅美（一九九五年卒）

日本を離れて早一〇年、アフリカ大陸西端の国、モロッコで暮らしています。サハラ砂漠の端、ジブラルタル海峡を挟んだスペインまでフェリーで四五分、内陸には二つの巨大迷宮都市を抱える国モロッコ。暮らす人も多種で、アラブ人、ベルベル人、西洋人、わたしのようなアジア人はかなり稀、日々好奇の目にさらされてますがそんなことは気にならないくらい刺激的な毎日です。

私が暮らすのは内陸南部にあるマラケシュという街。モロッコでは街に色があり、私の住むマラケシュは街全体がピンク！それだけでなくか興奮をそそりますよね。私の家は二〇kmにわたる城壁に囲まれた迷路状の旧市街にあり、街全体がコネスコの世界遺産に登録されています。一〇〇年以上前に建てられた家を昨年やっと改装しました。初めて建築字んだ人間らしいことをした気がします（笑）。

メディナと呼ばれる旧市街の家は迷路に沿って建つため、四角い家の三方が隣家と接しています。だからどの家にも明り取り用の中庭があり、我が家も小さな中庭を囲んで部屋が配されています。夏は五〇度を超す猛暑に耐えられるようなのか、壁は厚さ八〇cm、グラインドフロアーは穴倉のような雰囲気です。改装はタイルづくりから始まりました。磁器、陶器といろんなタイルがありますが、とりあえず一番安いセメントタイルにしました。模様を選び、模様のピース一つ一つに入る色を選び、一枚一枚丁寧に作ってもらう、なんとも贅沢です。家全体のイメージはマラケシュを愛したイブサンローラン邸にならってブルーとターコイズを基調にしました。タイルを張って、漆喰で天井や開口部の装飾を施し、泥棒市や蚤の市をまわっては買い集めた扉や窓、手すりを付ける。言葉にすると大層楽しいに聞こえますが、実際はそんなスマートではありませんで

した。すべてが手探り、左官に大工、タイル職人に漆喰職人、下水屋に電気屋といろんなところから寄せ集められた気の荒い職人たちとの慣れないアラビア語でのやり取りに一時は疲労困憊、もつとつにでもなりやがれ！とすべて放り出して逃げたくもなりましたが、一人歯を食い絞ってなんとかやり終えたのはもう一年ほどたったころだったでしょうか、おかげで白髪も増えました（笑）。でもやっぱり自分の好きが詰まった家での生活はすごく楽しくて幸せです。ささやかながら、芝浦を卒業して二〇年たった今やっと建築の醍醐味を味わっています。仕事と子育ての間に半ば趣味で始めた家づくり、暮らし始めて一年、いまだ家具や調度品を用意しきれっていませんが、それはこれからの楽しみとしてまあぼちぼちやっていこうかと。

自己紹介が遅れましたが、私はこちらでいわゆるモロッコ雑貨を作っている日本、NY、パリなどで紹介しています。同じく旧市街にあるアトリエでは三人のモロッコ人、二人の日本人スタッフと共に日々悪戦苦闘、こちらも家づくりとほぼ変わらぬ作業の繰り返し。建築学科で字んだことがどのように活かせるかわかりませんが、芝浦で石川先生に出会えたからこそ今の私がいると思っています。先生ありがとうございます！



中庭のタイル貼り



マラケシュ旧市街



セメントタイル製作

これまでの歩みと、
これからの願い

間宮農一(二〇〇〇年卒)



この九月より非常勤講師として設計課題を担当することになりました間宮と申します。何卒、宜しくお願ひ致します。私は二〇〇六年、出身地である名古屋を拠点に(株)間宮農一千デザインスタジオを設立しました。昨年、銀座二丁目目画廊を設計したのを転機に、東京にも活動の場を広げました。スタジオでは現在、「空間づくり」、「しくみづくり」、「場づくり」の三分野を展開しています。「空間づくり」では、住宅から店舗、保育園やお寺の本堂、複合施設まで幅広い設計を。「しくみづくり」では、商店街の会議にも参加しながら人の賑わいを生み出す仕組みを企画し。

そして「場づくり」では、不動産を絡め、利用価値の低い変形地への建築提案などを行っています。しかし私は始めから、このような形態を想像して会社を設立した訳ではありません。この七年間、設計活動と併走しながらアーキテクトとして取り組んでいきたい問題や積極的に仕事を作り出して行くこと、そして社会に投げかけてみたいことを少しずつでも実践していく中で、人が集い、自ずと今の組織の姿が出来上がってきました。活動を続けていく上で軸としてきたのが、「デザインで人を幸せに、社会を豊かにする」という会社理念です。

その想いへ近づいたための活動のひとつとして今年、東海地区限定の学生実施コンペ「未来の風景をつくる」を開催しました。審査委員長に五十嵐太郎氏(東北大学大学院教授)、審査委員に本校の准教授である原田真宏氏(マウンストフジャーキテクツスタジオ)、藤村龍至氏(藤村龍至建築設計事務所)をお招きし、審査をお願いしました。審査員のみなさんをはじめ多くの協力を仰ぎながら東海地区を若い力で盛り上げていきたい

と取り組んでいます。

まだまだ未熟者ですが、次の世代の力も借りながら豊かで幸せな風景を作りたいと思っています。

【間宮農一(デザインスタジオ)】

意匠屋の仕事

河原裕樹(二〇一〇年卒)



大学院を卒業して早いもので一年半。組織設計事務所に入社し、幸いにも、中学校、銀行、消防署、大学と、色々な用途の設計に携わることができている。基本設計から携わっている中学校は現在施工中で、来年の四月には開校する。実務を始めてから、意匠屋は「デザインだけを考えていけばいいものではない」と体感した。

学生の時には、ほとんどというか全く考えることなかった(私だけじゃないはず)、限られた予算、お客様の無理難題、構造が求める柱・梁、必要な配管スペース、納得できない法規や条例に、実力・経験不足もあるが、頭を抱えることばかりである。何かを作ること、それなりの知識を持つていけば、完成品の良し悪しは別として、こなせてしまっ内容でもある。

意匠屋の仕事は、そこにどれだけ自分の思いを詰め込めるかが、一番楽しいところであり、一番難しいところである。

建築は、役割の違う様々な人の繋がりでつくられていく。その架け橋になるのが、意匠屋の役割だと思う。

デザインには万人受けする解答がないので、自分の考える理想を、言葉の一つ一つに熱意を込めて説得することで、より美しくカッコいい建築ができる、と信じている。

偉そうなことを書いているものの、働き始めてから、帰日も遅いし休みもあまり取れず、「何をしてるんだ俺は」と思うこともよくある。

ただ、長い月日をかけて作業しているので、節目節目の喜びと達成感が大きい。実際私は、中学校の確認申請が降りただけで少し涙腺が緩んでしまった。完成したら泣き崩れるかもしれない。

意匠屋にとって最初の二、三年が一番挫折しやすい時期だと聞いたことがある。多くの物件に携わることは、精神的にも肉体的にも負担は大きい。この経験は後々の財産になることは間違いないので、折れずに、信念を持って前向きに仕事に取り組んでいきたい。

【株式会社あい設計】

建築学科の近況報告

堀越英嗣(二〇二三年度建築学科主任)

昨年に続き主任として二年目になりましたが、大学全体のグローバル化の動きなど新しい動きが活発な状態になっており、建築学科としてさらなる変化に対応する日々を追われています。またここ数年で教員構成も変化しています。それに伴い平均年齢も少しではありますが下がってきており若手教員のさらなる活躍が期待されています。

建築学科の近況を報告いたします。

二〇二二年度の学位記授与式、卒業記念パーティーは三月十六日に東京国際フォーラム及びホテル椿山荘東京で行われました。建築学科第五六回卒業生として九八名が卒業いたしました。学業成績など各賞の受賞者は以下の通りです。

□ 学業成績最優秀賞・総代

澤田侑香

□ 学業成績優秀賞・有元賞

森口佑紀

□ 学業成績優秀賞

中村優太・須田紘平・望月政成・中村哲也

□ 卒業論文優秀賞(五十音順)

青沼寛子

「農山村地域の空間活用に関する研究」
「早川町奈良田集落の空間活用を事例とした空き家の活用提案」

大野明日香

「コンサートホールにおける散乱反射音の聴覚的效果に関する研究」

高村健二

「天津神社と大工相馬家に関する研究」

永田佳奈子

「伝統的建造物群保存地区における生活景に関する研究 - 知覧麓を事例として」

望月政成

「受動喫煙リスクの低減化に関する研究」
「天井落下衝撃力を用いた安全性評価手法に関する基礎的研究 - 人体耐性指標を用いた安全性評価手法の提案」

森大

□ 卒業論文優秀賞・浜田賞

鈴木裕二

「ト形部分架構を有するパイルキャップの耐震性能に関する実験研究 - 破壊性状に関する検討」

□ 卒業設計優秀賞

田林祥平

「都市裏の彩り - 閉ざされた敷地主義建築群の脈絡の再生」

□ 卒業設計特別賞(五十音順)

肥沼真吾

「水の彩り」
「杜の郭 - 郊外 / 衛星都市における城郭都市構造」

鈴木智紘

「時のしおり - 日常の時間感覚を見す」

辻村拓也

「里処 - 大人のための子供施設」

依田彩加

二〇二三年度の入学式は四月二日に東京国際フォーラムで行われ、建築学科では二〇二名の新入生を迎えました。

二〇二二年度をもって林正司先生が退職されました。四十数年にわたり教鞭をとられ、建築学科の発展にご尽力頂き、感謝の念にたえません。

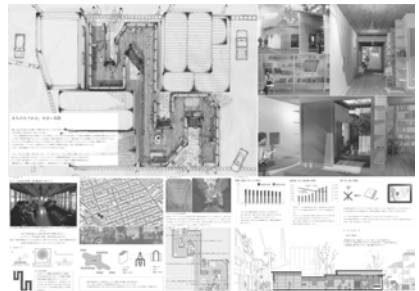
その後任として二〇二三年度より、建築振動・地盤振動をご専門とされている土方勝一郎先生をお迎えしています。新たな陣容で建築教育・研究に取り組んで参ります。付属中高の移転等、今後さらなる未来を見据えた変化が大学全体に起きようとしております。

卒業生の皆さまの一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。

デザインチャンピオンシップ二〇二二

第十一回を迎えたデザインチャンピオンシップが、二〇二二年の芝浦祭期間中の十二月二日に開催されました。デザインチャンピオンシップは二〇二二年より始まった建築学科主催の建築設計コンペです。毎年、外部講師をお招きして、七月に出題とご講演を、十一月の学祭期間中に合わせて公開審査と作品展示を行います。二〇二二は東洋大学教授の工藤和美先生に出題いただきました。工藤先生は、設計事務所「シーラカンスK&H」を共同主宰されている建築家であり、金沢海みらい図書館や多数の学校建築作品を手がけられています。

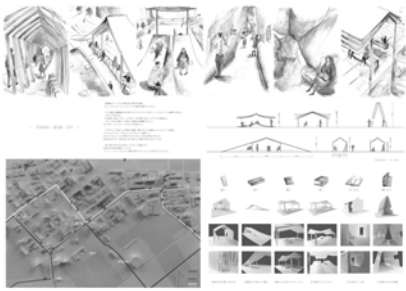
『知的好奇心を刺激するリーディングスペース』という出題に対し、建築学科をはじめ、建築工学科、環境システム学科、デザイン工学科、大学院から総勢四十四組八七名の応募がありました。パネル展示の一次審査、公開プレゼンテーションの二次審査を行い、大学院一年生の作品「まちのろうかは、せまい本屋」(中川達也)が最優秀賞に選ばれました。その他に優秀賞二点、佳作五点が選ばれました。



最優秀賞 「まちのろうかは、せまい本屋」
大学院1年
中川達也



優秀賞 「City of Books」
大学院2年
梶井智弘



優秀賞 「TOYOSU BOOK CITY」
建築学科4年
川上広泰、依田彩加、渡辺順子)



第十一回受賞者の記念撮影

- これまでのデザインチャンピオンシップ
- 第一回(二〇〇二年) 審査員：隈研吾氏
出題：Unit Object
- 第二回(二〇〇三年) 審査員：元倉真琴氏
出題：都市の隙間ーあなたが都市を変える
- 第三回(二〇〇四年) 審査員：内藤廣氏
出題：動く構造体

- 第四回(二〇〇五年) 審査員：山本理顕氏
出題：都市ミュージアム
- 第五回(二〇〇六年) 審査員：小島一浩氏
出題：新校舎に「FLA」をインプットせよ
- 第六回(二〇〇七年) 審査員：古谷誠章氏
出題：ハイパースクール／学校を超えた学校
- 第七回(二〇〇八年) 審査員：北山恒氏
出題：未来の集合体
- 第八回(二〇〇九年) 審査員：山下保博氏
出題：新しい環境の創出
- 第九回(二〇一〇年) 審査員：栗生明氏
出題：EARTHTECHTURE
- 第十回(二〇一一年) 審査員：難波和彦氏
出題：サステイナブルな「まちのいえ」

卒業生による就職セミナー(二〇一一)

二〇〇四年から始まった建築学科主催の就職セミナーが二〇一一年度も十二月二日(水)に開催されました。卒業して数年内の若い先輩方のお話は、学生にとっても共感しやすく、自身の将来を考える良き参考になったようです。

学部生、大学院生共に多くの学生が参加し、会場はほぼ満席の盛況なイベントとなりました。

講演者プロフィール

- 施工・氏名 角田沙世(つのださよ)
- ・卒業年 二〇〇八年
 - ・現職社名 清水建設株式会社
 - ・現職部署名 東京支店 建築第一部
 - ・業務の概要 建築施工管理。セミナー当時は世田谷区でマンションの新築工事に関わる



- 官庁・氏名 齋藤有里恵 (さいとうゆりえ)
- ・卒業年 二〇〇五年卒業(志村研究室)
 - ・大学院卒業年 二〇〇七年卒業(志村研究室)
 - ・現職社名 さいたま市／現職部署名 都市局南市公園管理事務所 開発指導課
 - ・業務の概要 都市計画法第二九条(開発許可)等、許可業務
- 構造・氏名 足立幸多朗(あだちこうたろう)
- ・卒業年 二〇〇七年(岸田研究室)
 - ・大学院卒業年 二〇〇九年(岸田研究室)
 - ・現職社名(株)安井建築設計事務所
 - ・現職部署名 東京事務所 構造部
 - ・業務の概要 建築物の構造設計業務、現場対応(変更対応、意図伝達業務等)
- 設計・氏名 原嶋宏樹(はらしまひろき)
- ・卒業年 二〇〇六年(堀越研究室)
 - ・現職社名 鹿島建設株式会社
 - ・現職部署名 建築設計本部
 - ・業務の概要 建築設計
- 設備・氏名 永吉敬行(ながよしただゆき)
- ・卒業年 二〇〇七年卒(西村研究室)
 - ・大学院卒業年 二〇〇九年卒(西村研究室)
 - ・現職社名 大成建設株式会社
 - ・現職部署名 設計本部設備一群
 - ・業務の概要 設備設計(病院 他)
- 特別ゲスト・氏名 志村太(しむらふとし)
- ・卒業年 一九八三年卒業
 - ・現職社名 清水建設株式会社／現職部署名：国際支店 建築技術部部長兼安全環境部部長
 - ・業務の概要 海外工事の品質確保・安全確保と技術支援及び技術品質安全環境の教育

二〇一三年度決算は左記の通りになりました。ここ数年、会費納入率は徐々に改善されてはおりますが、まだまだ低調なまま推移しています。本年も引き続き、建築会の活動ならびに会報の刊行費用などに、皆様のご理解ならびにご協力をお願い致します。

同封の郵便振替用紙で、年会費／二〇〇〇円をご送金ください。郵便振替用紙には氏名と共に、封筒の宛名欄に記載されている会員番号もご記入ください。

また、住所や勤務先などに変更があった方は、名簿のデータを更新しますので、通信欄にその旨を記載して下さい。

なお、名簿への不掲載を希望される方は、通信欄にその旨をご記入下さい。

本号もお忙しい中、原稿を快諾して下さいました卒業生の皆様、先生方、関係者の皆様にご心より御礼を申し上げます。

今号で建築会に携わるようになり五回目の会報となりました。月日が流れるのは早いな、とつくづく実感させられます。毎回、晩秋に編集作業をしていますと、最初に原稿に目を通した時に、皆さんの思い出や現況報告に引き寄せられ、私の中から様々な記憶や映像が立ち上って来ます。私に取っての会報編集時期は、先生や先輩、後輩、そして同級生の顔を思い出し、会いたくなり、飲みたくなる時期でもあります。

さて、二〇一四年は建築学科創立六〇周年にあたる記念の年です。建築会でも学科の先生方と共同して記念行事を実施する予定です。学友との再会や新たな出会いがあると同時に、建築学科の歩みを俯瞰できる六〇年に一度の貴重な機会です。ぜひお誘い合わせの上、お越し下さい。記念の年に、お会いできるのを楽しみにしております！

道田淳（一九九三卒）



二〇〇五年四月一日より「個人情報の保護に関する法律」が施行されました。本建築会におきましても会員の個人情報（氏名、自宅住所、郵便番号、電話番号、勤務先、勤務先電話番号等）につきましては、芝浦工業大学建築会会則第八条により厳重に管理しております。

第八条（個人情報の取り扱い）

- (一) 建築会の個人情報は以下の目的に使用する。
- 一、芝浦工業大学建築会「名簿」の作成資料
- 二、建築会会報の送付
- 三、建築会関連の案内
- 四、芝浦工業大学からの案内、連絡事項など
- 五、会員による同期会等の連絡

(二) 会員から提供された個人情報（上記利用目的の範囲を超えて利用しない）又収集した個人情報の利用、提供には厳正な管理の元本人の同意がある場合又は「法令等」で要求された場合を除き、第三者に開示、提供しない。

(三) 名簿作成に当たり氏名以外の個人情報（住所、電話番号、勤務先）削除の要求がある場合はその趣旨申し出により名簿から削除する。

(四) 会員個人情報の管理は建築会事務局が一括して行う。

お問い合わせ 学校法人芝浦工業大学建築学科内建築会担当
 〒一三五八五四八
 東京都江東区豊洲二七五
 TEL：〇三三五八五九八四〇〇
 FAX：〇三三五八五九八四〇〇

2013年度 会計報告 (2013.7.31現在)

収入	繰越金	普通貯金	44,772
		普通貯金(支出対応口座)	94,195
		普通貯金(会費受入口座)	2,640,910
		現金	5,551
		小計	2,785,428
会費	年会費振込み	794,000	
広告料	会報広告収入	0	
雑収入	建友会名簿分担金	0	
	郵便貯金利息	74	
	小計	794,074	
計		3,579,502円	

支出	会報第27号印刷費	771,124
	(総会他案内印刷・事務局封筒印刷・他)	
	ホームページ維持費	117,180
	慶弔費	15,750
	事務費	3,115
	通信費	2,030
	振込手数料	0
	事務用品費	0
計		909,199円

次期繰越	普通貯金	44,772
	普通貯金(支出対応口座)	190,761
	普通貯金(会費受入口座)	2,434,770
計		2,670,303円

支出+次期繰越金	3,579,502円
----------	------------



建築会ウェブサイト

http://sit-arch.com/